

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 3 日現在

機関番号：12603  
 研究種目：基盤研究(A)  
 研究期間：2010～2012  
 課題番号：22252004  
 研究課題名（和文） 安全保障・戦略文化の比較研究的視座からのEU諸国の危機管理活動  
 研究課題名（英文） The comparative studies on the security and strategic cultures in crisis managements of EU member countries  
 研究代表者  
 渡邊 啓貴(WATANABE HIROTAKA)  
 東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授  
 研究者番号：80150100

### 研究成果の概要（和文）：

三年間の本研究計画によって危機管理分野におけるEU加盟各国の安全保障・戦略文化の特徴や共通点・相違点が明らかにされたのは成功であった。その成果は国際政治学会167号特集号にて、「安全保障・戦略文化の比較研究」において発表された。本研究計画参加者の大部分が執筆した。今までの成果をさらに発展させて、2014年春には、最終成果として単行本の形で発行する予定である。この分野におけるわが国では初の試みである。

研究成果の概要（英文）：We could successfully make clear the security and strategic cultures of countries which each member dealt with for three years. I edited the special number 167 “Comparative Studies of Security and Strategic Cultures” of Journal issued by the Japan Association of International Relations in January 2012. We are programming to finalize our project through publishing another book specialized in global comparative research of security and strategic cultures, next Spring.

### 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	10,600,000	3,180,000	13,780,000
2011年度	9,000,000	2,700,000	11,700,000
2012年度	10,100,000	3,030,000	13,130,000
年度			
年度			
総計	29,700,000	8,910,000	38,610,000

研究分野：国際関係論

科研費の分科・細目：社会科学・国際関係論

キーワード：①安全保障 ②戦略 ③文化 ④EU ⑤危機管理活動

### 1. 研究開始当初の背景

安全保障・戦略文化研究は国際政治学の領域では新しい分野であり、わが国ではまだ未開の研究分野である。本研究計画開始数年前より、会合を開いて方法論などについて議論してきた。本格的に地域を基礎とするケーススタディが必要ということで参加者は一

致した。

### 2. 研究の目的

本研究計画は、米欧の安全保障・戦略文化（strategic culture/security culture 思考・行動様式）の比較を行いつつ、急速に発展するEU諸国の危機管理活動（欧州共通安全保障防衛政策（ESDP））への実態を実証的

に検証することを目的とする。EU の危機管理活動は、当初予想された軍事協力活動から、文民活動・軍民協力活動へと次第に比重を移している。軍装備上のレベル・性格の違いもあるが、そこにはアメリカとは一線を画す、ヨーロッパの歴史・文化的基層の違いがある。その意味では本研究計画は、EU 各分野での研究の主流となっている従来の制度的研究にとどまらず、その基層にある歴史・思想・文化研究にまで踏み込んだ点に大きな意義がある。そしてそのことを通して、米欧安全保障協力関係の深層にある共通点と相違点を踏まえて今日の欧州安全保障、とくに危機管理活動を長期的な視野から考察することにした。最終的にはここで得られた一連の成果を日本のアメリカ・アジア諸国との安全保障関係や国際貢献の考察につなげることが目的である。

### 3. 研究の方法

2010

メンバー間でのコンセプトの確認・共有に着手し、研究体制の枠組みを整えた。

各国の持つ世界観、平和観、軍事力に対する意識、防衛意識などが思想的・歴史的に構築されてきた安全保障の文化的側面としての戦略文化・安全保障文化について、その概念を確認し、研究推進の指針を確定し、メンバー間で共有することに心がけた。「ヨーロッパ全体と米欧各国の戦略文化・安全保障文化の理解→そうした文化のヨーロッパレベルでの危機管理活動における現実的影響、またヨーロッパ各国間での戦略文化の違いとそれがEU 共通安全保障政策(危機管理活動)に与える影響(協力と足並みの乱れ)→アメリカとの比較と米欧関係の深層的理解→日本外交へのインプリケーションの発見」という流れを確認する。そして各自の研究対象でどんなアプローチが可能か考察することを目標にした。

2011

前年度はメンバー間でのコンセプトの確認・共有を進め、研究体制の枠組みを整えることができた。2年目にあたるこの年は、先の研究プロセスの第一段階を達成したことを踏まえて、安全保障・戦略文化が各国に与える影響について研究を進めた。各国の持つ世界観、平和観、軍事力に対する意識、防衛意識などが思想的・歴史的に構築されてきた安全保障の文化的側面としての安全保障・戦略文化が危機管理活動の政策決定とその実現に対してどのような影響を与えたかについて各自研究を進めた。

研究調査旅行について、渡邊は、国際戦略研究所 (IRIS)、フランス国際関係研究所 (IFRI) などのシンクタンク、訪問した。坂井は、フランスに半年研究滞在したが、パリ政

治学院などを訪問して、ESDP に関する情報収集と意見交換を行なった。佐々木は、ワシントン DC を訪問し、ジョージワシントン大学、研究機関でのアメリカ外交史、政治文化論の研究者との意見交換を進めた。森井はドイツを中心に訪問した。羽場は、東欧諸国と欧州委員会を訪問し、東欧諸国の EU 危機管理活動への対応並びに対米関係について意見聴取を行なった。五月女・斉藤のも適宜担当地である北欧・イギリス・ベルギーなどを訪問した。

2012

3年目にあたるこの年は、コンセプトの確認・共有を進め、研究体制の枠組みを整備し、安全保障・戦略文化が各国に与える影響について研究を進めた。各国の持つ世界観、平和観、軍事力に対する意識、防衛意識などが思想的・歴史的に構築されてきた安全保障の文化的側面としての安全保障・戦略文化が危機管理活動の政策決定とその実現に対してどのような影響を与えたかについて各自研究を進め、日本国際政治学会 167 号 (2012 発行) で特集号(「安全保障・戦略文化の比較研究」)を渡邊が責任編集したが、研究分担者の大半が論考を寄せた。

研究調査旅行について、渡邊は、パリ政治学院国際関係研究センター (CERI)、フランス国際関係研究所 (IFRI) などのシンクタンク、アメリカの CSIS (国際戦略研究センター) やブルッキングス研究所を訪問し、各国での戦略文化研究の現状を把握した。ブリュッセルでは、欧州委員会の担当官、ヨーロッパ政策研究所などの研究員と意見交換を行なった。坂井は、フランスとブリュッセルを訪問した。森井はドイツを中心に訪欧した。羽場は、東欧諸国と欧州委員会を訪問し、東欧諸国の EU 危機管理活動への対応並びに対米関係について意見聴取を行なった。五月女・斉藤も北欧・イギリス・ベルギーなどを訪問した。

### 4. 研究成果

2010

定期的に研究会合を開催する一方で、研究代表者と分担者は、それぞれの担当国、地域の聞き取り活動などを実施した。各自、本研究テーマに即したそれぞれの地域事情のベーシックな情報及び研究体制の概要について、理解を深めた。

「ヨーロッパ全体と米欧各国の戦略文化・安全保障文化の理解→そうした基層文化のヨーロッパレベルでの危機管理活動に与える影響(協力と足並みの乱れ)→アメリカとの比較と米欧関係の深層的理解→日本外交へのインプリケーションの発見」という流れの中で第一段階が無事に終了した。

渡邊はフランスを中心にパリ政治学院、国際問題研究所、フランス国際問題研究所などとの接触を持ち、坂井はパリ第2大学で客員研究員を勤め、ブリュッセルの欧州委員会を訪れた。森井はドイツを中心に訪問した。羽場は、東欧諸国と欧州委員会を訪問し、東欧諸国のEU危機管理活動への対応並びに対米関係について意見聴取を行なった。五月女・斎藤の連携研究者も適宜担当地である北欧・イギリス・ベルギーなどを訪問した。佐々木もアメリカを訪問した。

他方、フランスからIRIS(国際戦略研究所)ポニファス所長を招聘し、講演会とシンポジウムを開催、また平成23年への繰り越し予算で、11月に北岡伸一東大教授と渡邊がパリ第1大学でシンポジウムを企画した。ポニファス所長は日仏会館と国際問題研究所で講演を実施し、多くの聴衆を集め、盛んに論議が行われた。特に中国の存在感が強まる中、ヨーロッパから見ると日本の存在がどのようにみられているか、という点については興味深い意見が聞かれた。また、パリでのシンポジウムはソルボンヌを会場にして、これも多くの聴衆を集めて(約100名)、午前、午後に分けて実施された。

## 2011

2年目の本年は、安全保障・戦略文化が各国に与える影響について、それぞれの担当地域の研究を深めていくことに努めた。特に、各自はそれぞれの担当国・地域での独自の方法論・アプローチで模索することになったが、その成果については、統一した結果はまだできていない。

その意味では、それぞれの分担者の研究進捗具合にばらつきがみられ、全員がEU危機管理活動の政策決定そのものの研究にまで至ったわけではなかったが、代表者と分担者全員(佐々木氏は執筆が連続するので執筆資格がなかったのが外れたが)が日本国際政治学会の機関誌167号「安全保障、戦略文化の比較研究」(代表者渡邊の責任編集号)に執筆した。このテーマでの特集号は本学会では初めての試みであり、画期的なことであった。日本の学界全体にとっても資するところが大きかったと確信している。

本特集号の中では、この分野での幾つかのアプローチ、つまり歴史的アプローチ、言説分析、コンストラクティブアプローチなどによる研究業績の寄稿があった。アプローチのカテゴリーとその特徴についての共通認識を達成することができた。

他方で各研究分担者はそれぞれの担当地域を訪問し、情報収集、専門家たちとの意見交換を行った。渡邊は主にフランスで、パリ政治学院、IRISなどを訪問、羽場は、東欧、ブリュッセル、佐々木はアメリカ、森井

はドイツ、坂井、五月女、斎藤も北欧・イギリス・ベルギーなどを訪問した。

## 2012

各自それぞれの調査先に出かけた。坂井はフランス・ベルギー、羽場はアメリカ、森井はドイツとベルギー、五月女はスウェーデン、斎藤はイギリス、渡邊はフランスとアメリカで調査活動を行った。また各自は本研究プロジェクトに関する業績を発表した(研究発表欄参照)。

研究会及び情報交換会合を五回開催した。安全保障・戦略文化に関する概念と対象についての詰めの作業が進めたが、新しい分野であり、なかなか全体としての一致点を見るには至らなかった。今後は研究対象分野などを限定していく中で、比較の共通基盤をもっと精度化していく必要があるという点で研究分担者は合意した。

基本的な報告書は中間報告の形で、2012年1月に発表されているが、これを最終論文にまとめ、単行本とする予定である。これは芦書房から2014年3月に出版される予定である。

また海外からの研究者や他の学術団体との研究協力活動も実施した。2012年12月にはフランスから著名な政治学・戦略研究・EU・現代フランス政治・アジア研究の専門家を招き、日仏会館や国際問題研究所などで四日間にわたり、外務省・国際交流基金などと協賛した研究会やシンポジウムを開催した。グローバル・プレイヤーとしての日仏・日欧の国際社会での活動を活発化させていくために、日欧の戦略・安全保障文化の比較による違いを確認しつつ、一層の協力の可能性を導き出すことに貢献したと評価している。2013年1月には政治社会学会やアジア共同体学会などとシンポジウムを開催して、アジアにおける共同体設立とEUとの比較を通してその基層にある文化について議論を深める事ができた。

この一年間は本研究計画の最終年に当たり、まとめの意味での会合やシンポジウム・合同研究会合を開催し、大きな成果を見たと考えている。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計25件)

①渡邊啓貴、2012年フランス大統領選挙の分析——新しいスタイルの大統領サルコジの敗因とオランダの戦略、国際関係論叢、査読無、第2巻 2号 2013、71-91

②渡邊啓貴、CULTURAL DIPLOMACY Turning Culture into Diplomacy DIPLOMACY、Australia Web サイトマガジン、査読無、

2012 1-3

- ③渡邊啓貴、欧州危機とドイツ政治、海外事情 査読無 5月号、2012、18-33
- ④渡邊啓貴、安全保障・戦略文化の比較研究、日本国際政治学会「国際政治」、査読無 167号、2012、1-13
- ⑤森井裕一、ドイツの安全保障文化の変容-連邦軍と徴兵制をめぐる-議論を中心として、日本国際政治学会「国際政治」、査読有、167号、2012、88-101.
- ⑥坂井一成、フランスの対外政策における地中海の存在意義-歴史的文化的背景と安全保障文化、日本国際政治学会「国際政治」、査読有、167号、2012、102-115
- ⑦羽場久美子、ヨーロッパの「危険地帯」中・東欧とバルカンの戦略文化、日本国際政治学会「国際政治」、査読有、167号、2012、72-87
- ⑧齋藤嘉臣、ギリスの戦略文化とヨーロッパ安全保障防衛政策：ブレア政権における政策、日本国際政治学会「国際政治」、査読有、167号、2012、116-129
- ⑨五月女 律子、スウェーデンの安全保障政策における「非同盟」日本国際政治学会「国際政治」、査読有、167号、2012、88~101
- ⑩五月女 律子、デンマークの安全保障防衛政策 -冷戦後の変化を中心に、北九州市立大学法政論集、査読無、第39巻 第3・4合併号、2012、1~24
- ⑪羽場久美子、「第2次世界大戦史国際委員会-占領経験 1931-49年、国際関係史学会-移民と分界点」、歴史学研究会編集『歴史学研究』、査読有、879巻、2011、8-14
- ⑫羽場久美子、「多層化するソフトな地域統合-東アジアの地域統合とEU」、日本学術会議『学術の動向』、査読有、84巻、2011、77-91
- ⑬羽場久美子、「拡大EUの境界線とシテンシップ」、『社会志林』法政大学、査読有、54(4)、2011、35-53
- ⑭渡邊啓貴、勢いを増す「国民戦線」と人気低落傾向のサルコジ政権、海外事情、査読無、59巻2号、2011、2-17
- ⑮渡邊啓貴、日本外交の未来を担う文化外交、外交、査読無 1巻、2011、78-88
- ⑯佐々木 卓也、「核」とアメリカ、日本国際政治学会「国際政治」、査読無、163号、2011、1-13
- ⑰羽場久美子、「拡大EUにおける境界線とシテンシップ-ヨーロッパ・アイデンティティとゼノフォビアの相克」、『社会志林』(法政大学)、査読無、Vol. 57-4、2011、35-53
- ⑱渡邊啓貴、The cold war and the International Relations in the Western Alliance in the Atlantic and the Pacific、The End of the Cold War and the Regional Integration in Europe and Asia、査読無、2010、121-134

⑲坂井一成、EUの対中東予防外交-東地中海地域を中心に、日本EU学会年報、査読有、30巻、2010、132-154

⑳森井裕一、"Germany and the Euro-Domestic Discourse on Monetary Stability and its Political Implications"、日本EU学会年報、査読有、30巻、2010、66-88

㉑羽場久美子、The Origin of the Cold War and Central Europe、The End of the Cold War and the Regional Integration in Europe and Asia、査読無、2010、193-215

㉒羽場久美子、グローバリゼーションとトランプイッキング- EU・日本に見る 実態と戦略-、年報政治学 ジェンダーと政治過程 (日本政治学会)、査読有、2010-II、2010、174-193

[学会発表] (計21件)

①森井裕一、Japan and EU in Multilateralism - a Case of Human Security、15th Japan-EU Conference "Japan-EU Cooperation in a Changing World: Approaches to Rules and Standards"、2012、University Foundation, Brussels

②渡邊啓貴、国際関係史学会報告、The Great Kanto Earthquake and the path to the Pacific War、2012、ルーマニア・ブカレスト

③渡邊啓貴、JIIA-SWP Annual Meeting on Tue, 2012、European Integration and Crisis、国際問題研究所

④渡邊啓貴、多国間主義と二国間主義——日仏同盟政策比較」、日仏会議「グローバルプレイヤーとしての日仏協力」、2012、国際問題研究所

⑤羽場久美子、"Asian Regional Integration and US-Japan Relations"、東北大学東北フォーラム、2012、東北大学

⑥渡邊啓貴、Global and Regional Shift: Power shift in Asia and Japan、IRIS-JIIR、October 10 2011、IRIS Paris

⑦渡邊啓貴、EU外交安全保障政策とマルチラテラリズム、国連大学(招待講演)、2011、神奈川県国際学生村

⑧渡邊啓貴、Diplomatie culturelle du Japon、Institut francais (招待講演)、2011、College de France, Paris

⑨羽場久美子、"East Asian Regional Cooperation and the Role of United States"、WISC (World International Studies Committee)、International Conference、2011、Prto, Portugal

⑩羽場久美子、「拡大EUと東アジア共同体」神戸大学EUIJ講演(招待講演)、2011、神戸大学

⑪羽場久美子、The Enlarged EU and the East Asian Regional Cooperation The

Reconciliation with Enemies and the Alliance with the USA、International Studies Association (ISA)、2011、Montreal、Canada

⑫羽場 久美子、Lesson of the European Union and the Asian Regional Cooperation、Japan-EU Cooperated Symposium、2011、Budapest、Hungary

⑬羽場 久美子、The New World Order and the East Asian Reorganization、Japan-India Government-Academic Collaboration (Japan-Indian Foreign Ministry)、2011、IIC (Indian International Center)、Deli、India

⑭渡邊啓貴、フランス政治の現状、日仏政治学会、2010、日仏会館

⑮渡邊啓貴、フランスとリスボン条約、日本国際政治学会、2010、札幌コンベンションセンター

⑯渡邊啓貴、Japanese Soft Power and Influential Foreign Policy----- From Japonism to Neo-Japonism、Commission of History of International Relations、2010、アムステルダム

⑰坂井一成、EUの少数言語保護政策—東方拡大とその後、日本比較政治学会、2010、東京外国語大学

⑱羽場 久美子、「リスボン条約後における拡大 EU の政治戦略—中東欧議長国の役割と域内・域外政策」、日本 EU 学会、2010、青山学院大学

〔図書〕(計 17 件)

①濱本正太郎・興津征雄(編)、勁草書房、ヨーロッパという秩序(執筆分担坂井一成)、2013、258

②日本国際問題研究所監修、久保文明編、中央公論新社、『アメリカにとって同盟とはなにか』(第二章「アメリカの外交的伝統・理念と同盟—その歴史的展開と日米同盟」佐々木卓也、2013、362

③森井裕一、有斐閣、ヨーロッパの政治経済・入門、2012、320

④中村雅治・イーヴ・シュメイユ編、SUP 上智大学出版、EU と東アジアの地域共同体—理論・歴史・展望(森井裕一、「東アジアの統合のモデルとしての EU の可能性」(分担執筆、第 8 章、177-195 頁)、2012、404

⑤押村高・小久保康之、ミネルヴァ書房、EU・西欧：世界政治叢書 2 (渡邊啓貴「EU 共通外交安全保障政策」、森井裕一「シュレーダー政権の評価とメルケル政権の動向」)、2012、262

⑥山本吉宣・羽場久美子・押村高、ミネルヴァ書房、国際政治から考える東アジア共同体、2012、320

⑦羽場 久美子、岩波書店、『グローバル時

代のアジア地域統合—日米中関係と TPP のゆくえ』、2012、64

⑧J. Ikenberry, Y. Yamamoto, K. Haba eds、Shohkado、The Regional Integration and Institutionalization comparing Europe and Asia、2012、292

⑨Kumiko Haba, Szerdahely Istvan, Brij Tanka, and Wang Min eds、Aoyama Gakuin University、Asian Economic Development among EU, Asia and Japan、2012、202

⑩J. Ikenberry, Y. Yamamoto, K. Haba eds、Aoyama Gakuin University、The Regional Integration in Asia and Europe: Theoretical and Institutional Comparative Studies and Analysis、2012、177

⑪佐々木 卓也、有斐閣、冷戦—アメリカの民主主義的生活様式を守る戦い、2011、228

⑫佐々木 卓也、ミネルヴァ書房、ハンドブック アメリカ外交史—建国から冷戦後まで、2011、315

⑬羽場 久美子・溝端佐登史編著、ミネルヴァ書房、世界政治叢書 ロシア・拡大 EU、2011、360

⑭森井裕一(編)、信山社、地域統合とグローバル秩序—ヨーロッパと日本・アジア、2010、267

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

渡邊 啓貴(WATANABE HIROTAKA)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：8 0 1 5 0 1 0 0

### (2) 研究分担者

坂井 一成(SAKAI KAZAUNARI)

神戸大学・国際文化学術研究科・准教授

研究者番号：6 0 3 1 3 3 5 0

### (3) 研究分担者

森井 裕一(MORII YUICHI)

東京大学・総合文化研究科・准教授

研究者番号：0 0 2 8 4 9 3 5

### (4) 研究分担者

佐々木 卓也(SASAKI TAKUYA)

立教大学・法学部・教授

研究者番号：6 0 2 0 2 0 9 0

### (5) 研究分担者

羽場 久美子(HABA KUMIKO)

青山学院大学・国際政治経済学部・教授

研究者番号：7 0 1 4 7 0 0 7

### (6) 研究分担者

五月女 律子(SAOTOME RITSUKO)

北九州市立大学・法学部・准教授

研究者番号 : 5 0 3 2 6 5 2 6

(7)研究分担者

齋藤 嘉臣 (SAITO YOSHIOMI)

金沢大学・法学系・准教授

研究者番号 : 1 0 4 0 2 9 5 0